

令和2年（2020年）2月10日

第1回都市マネジメント懇談会
会議要旨

事務局

都市整備局都市計画課

第1回都市マネジメント懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和2年（2020年）2月10日 午前9時30分

2 開催場所

広島市役所議会棟4階全員協議会室

3 出席委員

渡邊委員（座長）、山本委員、田中委員、神田委員、フंक・カロリン委員
木原委員

4 傍聴人

一般 5名
報道関係 3社

5 閉会

午前11時30分

【都市マネジメント懇談会開催要綱、都市マネジメント懇談会内容】

事務局から都市マネジメント懇談会開催要綱及び懇談会内容の資料について説明

【座長の選任】

座長は、渡邊委員に決定

【論点整理】

（渡邊座長）

・「広島市における集約型都市構造への転換に向けた論点整理」を説明

【話題提供】

(田中委員)

- ・「都心部における環境調和型デザインの維持及び改善」を説明

【意見交換】

[公共空間の活用]

(山本委員)

- ・市の都心部は公共空間が非常に豊かで、積極的に有効活用を図ってきている。今後は公共空間と民有地が接する部分に着目し、民有地の地先の道路、河岸緑地等の活用を進めたら面白い。

(渡邊座長)

- ・広島は「水都広島」と言われており、河岸緑地も大事な空間だと思うし、先程の田中委員の説明からすると、ヒートアイランド対策としても重要だと思う。
- ・歩いて楽しいまちという面でも、民間の公共貢献で緑陰空間などの日陰をうまく作ることが大事だと思う。
- ・これまで車寄りだった道路が、人寄りになってきているし、今後、公共空間としての道路をどう使うかは、大きな問題だと思う。

(フंक・カロリン委員)

- ・広島は今後、高層ビルが増えてくるので、今の段階で緑化と影のルールを作っておく必要がある。
- ・広島へ欧米からの観光客をさらに増やすには、緑のある自然を増やすことが重要である。

(木原委員)

- ・1つの敷地や建物でなく、地区として全体の魅力を高めていく一環の中で、地区の建物のガイドラインに加えて、一連の景観や空間構成要素として緑地やパブリックスペースをどのように取り込んでいくかもガイドラインとして設定していくべきではないか。

(神田委員)

・今後、高層建築物が建つ流れはしばらく続くのは間違いないと思うので、まちと空間が変わるチャンスである。他都市を見ても、建築時には緑の設計を考慮しているが、その後のメンテナンスに課題があるので、緑をどうマネジメントしていくかという計画が必要だと感じる。

・例えば片側1車線の道路についても、一方通行にして空いた空間を緑の空間にするなどの新しい計画も策定してもいいと思う。

[宿泊観光客の増加]

(渡邊座長)

・広島市は欧米からの観光客が多いが、日帰りの観光客が多いので、もう少し宿泊者が増えれば観光関連産業がもっと伸ばせると思うので、ホテルやMICEなど観光産業をもっと広島で盛り上げるべきである。

(フク・カロリン委員)

・川沿いにホテルがあり、そこでランニングできるとか夜歩いて楽しめる空間や緑地が多くあるとか広島市に宿泊する理由があれば、宿泊者数は増えると思う。

(渡邊座長)

・ヒートアイランドを考えても観光を考えても緑の空間は重要である。広島には河岸緑地があるので、それをもっと増やして道路や公園とつなぎ、トータルなまちのデザインのあり方を考える必要があると思う。

(フク・カロリン委員)

・広島は海をうまく都市空間や観光空間につないでいないので、長期的な風通しも考えて、観光空間として考えると海を川を通じてまちの中まで持ってくるということも考えてもいいと思う。

(山本委員)

・場所によっては、道路の車線を減らしてでも歩行者空間を増やして、ヨーロッパのようにカフェができたりとか、そういう歩いて楽しく回遊できるまちを徹底的につくっていくこともいいと思う。

(神田委員)

・広島駅から紙屋町八丁堀を見ても、歩いて楽しい空間が少ないので、この

間を工夫することでまちの魅力が大きく変わるポテンシャルがあると思う。

(渡邊座長)

・昔は、西国街道があって、ちょうど広島駅と紙屋町八丁堀を結んでいた。広島都市計画は被爆後の話ばかりだが、このように歴史的な街道があったりとか、そういうもう少し前の広島のまちがどういう価値を持っていてそれを今後どう生かしていくかということについても議論してもいいのではないかな。

(木原委員)

・都心がどうあるべきかということに対して市民や民間からも意見を出していく際には、行政との間をつなぐ中間組織が都心部の都市デザインマネジメントでは必要と感じる。

[パブリックマインド]

(渡邊座長)

・マネジメントはこれから重要であり、今後はもう少し経営より視点で考えるタイミングにきていると思う。

(神田委員)

・まちづくりや再開発は、どうしても資本の強いところが勝つプロジェクトになっている気がするが、大資本に依存しない個々のプレーヤーによる魅力づくりという発想もあっていいと思う。

(渡邊座長)

・欧米のまちづくりは公共貢献するというマインドがすごくある気がするが、日本はまだそこが弱いので、そういうマインドを持って欲しいと思う。

(フंक・カロリン委員)

・マインドよりルールの問題もあると思う。例えば、風通しの話では、風を防ぐからここに何階建て以上は立てることができない等のルールが必要である。

(田中委員)

・風のことを考えたときに建物に対して一定のルールを設定することは必要だと思う。一方で、市民が納得することも必要であると思うので、まちの現

状を知るとかまちの将来がどうあるべきなのかということを考えることが必要である。それに加え、そういうことを話し合う場や組織が必要であり、全員が納得できなくても多くの方が納得することに持っていく必要があると思う。

(渡邊座長)

- ・高いビルを建てていい場所をコントロールする必要があると思う。
- ・これまでの都市計画のプレーヤーは行政だったが、今は大きな変換点で、都市計画のプレーヤーは行政も民間も市民もと変わってきていることを認識するところだと思う。

(木原委員)

- ・行政が民間や市民の声を拾い上げるしっかりとした仕組みが必要であると思う。いかにエリアとして価値を高め発信していけるかということで、都市デザインについてマネジメントしていく必要があると思う。

(フク・カロリン委員)

- ・都市マネジメントを考えた場合は、都市再開発や都市の再生をどこの民間企業を中心に行うかということが重要である。他の都市との差をどうつくるかとなると全国業者では差が出ないので、広島にはどういう開発が欲しいのか、どういう将来像があるのかなどを考える組織が必要だと思う。

(神田委員)

- ・東京の再開発が見えるかたちになってきているが、これらに関連する議論が始まったのは非常に景気の悪い時期だった。景気が良くなり始めたときに民間の投資余力が出てき始めるので、都心の活性化の議論は不景気な時期にしておかなければならない。東京の事業も20年かかっていることを踏まえると、投資のタイミング、議論のタイミング、民間とどうコミュニケーションとるのかなどの戦略も必要だと思う。
- ・先程のどこの民間企業かということも非常に重要であり、タイミングも含めしっかりと民間企業とコミュニケーションをとる必要があると思う。

(渡邊座長)

- ・広島は、デルタという軟弱地盤の上にまちがあり、デルタだからこそのまちっというのがあるはずで、川の空間をうまく使うとか風をうまく使うとか、

そういった中で公共空間や公共空間と民地の境をどう活用するかという議論もあったが、これからは官民連携で民間も含めたまちづくりを進める必要があり、みんなで都市空間の活用をマネジメントする方向で考える必要があると思う。

[ヒートアイランド]

(フク・カロリン委員)

・30年、40年先に一番考えないといけないのは、気候変動の中、温暖化の中の都市である。特に都心部の場合は、ヒートアイランドを最も発生させているところなので、一番重要なポイントとする必要があると思う。

(田中委員)

・気候変動がなかなか収まる気配がなく、それに対して対応しなければならないのが現状であるので、暑くなるけど人の集まる空間はある程度快適だという状況をいかに作っていくかということがポイントになると思う。

[その他（呉から見た広島、広島から見た呉）]

(神田委員)

・広島と呉が両方底上げしていかないといけないと思う。例えば、広島に来る観光客が2倍になれば、呉に来る観光客も2倍になる可能性もあるかもしれないし、そういう意味では広域という視点は非常に大切だと感じる。広島市は、広島県内23市町、あるいは中国5県を牽引するという発想が必要だと思う。

(渡邊座長)

・都心は、広島県のエンジンでもあるし、広島市のエンジンでもあるが、もう少し広域的なエンジンでもあるので、そこがもっと魅力的なまちになる必要があり、それについて行政も考えないといけないし、民間も一緒になって考えないといけないタイミングになってきていると思う。その時に広島史について、戦後より前の時代の広島はどのような暮らしが行われていたかということも都心を語る時に必要だと思う。